

# Shionogi Business Report

第143期【中間】平成19年4月1日～平成19年9月30日



## 株主の皆さまへ

株主の皆さまには、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

当社の第143期（2007年度）上半期の事業概況をご報告申し上げるにあたり、この間に株主の皆さまから賜りましたご協力、ご支援に対しまして、厚く御礼申し上げます。

当中間期の国内医薬品業界におきましては、増大する医療費の抑制に向けての議論を背景に後発品の使用や医療費の包括化がさらに促進されるなど、一段と厳しい市場環境に推移しました。また、販売面、研究開発面での企業間競争もグローバル企業を含めて一層激しさを増しており、事業再編や企業間統合の動きも依然として活発に進められております。このような厳しい市場環境の現状を踏まえ、2005年からスタートさせた第二次中期経

営計画（2005年～2009年）におきまして、今後の取り組みや業績目標の見直しを行い、3年目の新たなスタートを切りました。研究開発面におきましては、グローバルに通用する新薬を継続的かつスピーディーに創製し開発するための体制強化に注力するとともに、パイプラインの充実を図るためのインライセンス活動も活発化させております。製造面におきましては、高品質、安定供給を常に念頭に置いた上で、引き続き原材料の価格低減、工程改善などによる原価低減についての努力を続けております。



また、販売面では、リソースを集中して取り組んでおります高コレステロール血症治療薬「クレストール」につきまして、その有効性・安全性・経済性が評価され、順調に市場シェアを拡大しております。さらには、抗菌薬領域におけるプレゼンスの拡大に向けた的確な情報提供活動の一層の強化を図り、がん疼痛からの解放・QOLの改善に向けた啓発活動も積極的に行っております。

当期の中間配当金につきましては、1株当たり10円を実施させていただきます。また、平成20年3月期末の配当金は1株当たり10円を予定しております。これにより、1株当たり年間配当金は、前期に比べて4円増額の20円となります。また、株主還元水準の向上及び資本効率の改善を図

るため、本年9月18日開催の取締役会において、9月19日から11月16日までの期間に上限を5,500千株、100億円として自己株式を取得することを決議いたしました。

配当を中心とした株主還元につきましては、今後も業績の向上と共に安定的に向上させていく所存です。

株主の皆さまにおかれましては、当社の事業活動にご理解を賜りますと共に、今後とも一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長

塩野元三

## シオノギの基本方針

「常に人々の健康を守るために必要な最もよい薬を提供する」

シオノギの行動方針 シオノギの基本方針(シオノギの心)を、具現化するためのものです

### ミッション……

患者・家族の方々のQOL向上を実現するために、  
患者・家族・医療従事者の方々により一層満足度の高い  
医薬品をお届けする

私たちは基本方針に掲げる「常に人々の健康を守るために必要な最もよい薬を提供する」という理念に基づき、「患者・家族の方々のQOL向上を実現するために、患者・家族・医療従事者の方々により一層満足度の高い医薬品をお届けする」ことをミッションとし、以下の活動を通じてその具現化に専念します。

独創的な医薬品を創製し、必要としている人々に一刻も早くお届けします。

必要としている人々の声を速やかに製品に反映し、高い品質の医薬品を、安定的、経済的に製造・供給します。

適正使用に必要な情報を適時的確に提供し、医薬品の有用性をますます高めます。

### ビジョン……

存在感のある強いシオノギ  
私たち自身がやりがい、誇り、夢の持てるシオノギ

私たちは、私たちのミッション実現のため、世界中で患者・家族・医療従事者の方々や社会に認められる事業展開を行なう「存在感のある強いシオノギ」であるとともに、「私たち自身がやりがい、誇り、夢の持てるシオノギ」であることを目指し、第2次中期経営計画を達成します。

### バリュー……

顧客志向、信頼、プロフェッショナル、現場重視、個の尊重

私たちは、私たちのミッション、ビジョンを実現するために、上記の5つの点を最も重要な行動規範とすることを決意しました。

この5つの誓い(シオノギバリュー)を、高い倫理観をもって実行することにより、人々の共感を得る会社でありつづけたいと思います。

## 経営戦略

当社グループは、医療用医薬品事業を核として長期的な発展を遂げるための施策を積極的に進めるという第二次中期経営計画の取り組みを確実に進めていくことに注力してまいります。特に、市場環境や戦略面の課題から、見直しを行いました営業面への取り組みを強化するほか、第二次中期経営計画の最終年度であります2009年までの3年間におきましては、以下のテーマを中心として取り組んでまいります。

- 研究開発活動におきましては、グローバルに通用する新薬を継続的に創製し開発するための体制を整備してまいります。そのため、現在開発中のものに加え、国際競争力を持った開発品の継続的な創出と、日米欧3極同時開発に対応できる組織体制の整備・人材の育成、戦略的なアライアンスに注力いたします。
- 営業活動におきましては、「 Crestal 」 「 Finibax 」 「 Avelox 」 等の新製品ヘリソースを集中しシェア拡大に努めるとともに、がん疼痛からの解放・QOLの改善に向けての活動を強化してまいります。また、市場構造を勘案し特定機能病院への取り組みを拡大するとともに、現場に密着したマーケティングプラン推進者を設置するなど、組織的な営業活動の強化を図ってまいります。
- 将来の飛躍に向けて、創薬シーズ探索の強化や積極的なインライセンス、海外展開のための体制整備に加え、製造、研究開発への設備投資など、今後3年間で600億円超の戦略的な投資を行っていく予定であります。

以上の第二次中期経営計画の遂行を通じて、当社の基本方針の具現化を図り、製薬企業としての存在感の一層の向上に努めてまいります。

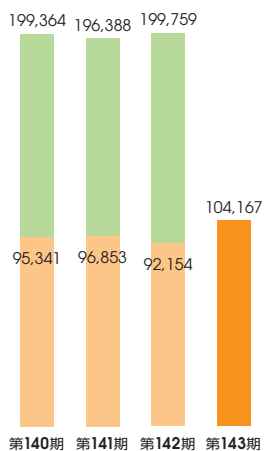
目標とする経営指標は以下のとおりであります。

2009年度において	連結売上高	2,700億円
	連結営業利益	800億円
	連結当期純利益	480億円

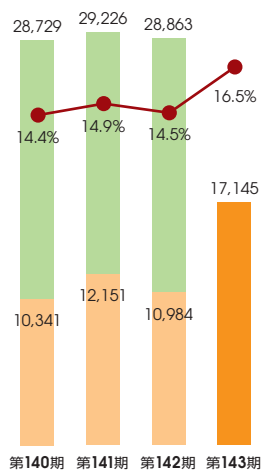
## 利益配分に関する基本方針

当社は、中長期的な視点での企業価値増大を図るため、事業投資を積極的に行うとともに、配当につきましては、各期の業績に応じた配分を基本におきながら、これを安定的に向上させることを目指しております。内部留保資金につきましては、新製品の開発に関する研究開発投資等、将来の事業展開に向けた資金需要を中心として充当してまいります。なお、今後の配当性向につきましては、2009年度の指標として35%（連結配当性向）を目標といたします。

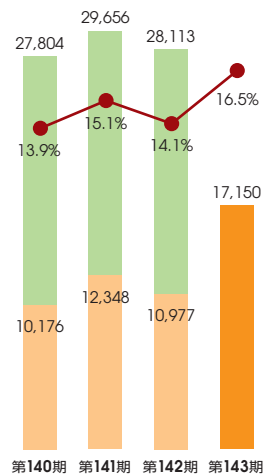
## ◆売上高



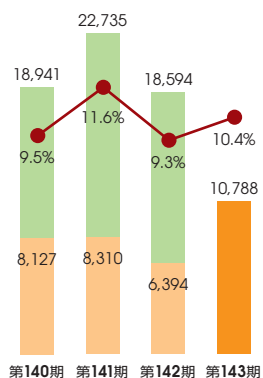
## ◆営業利益



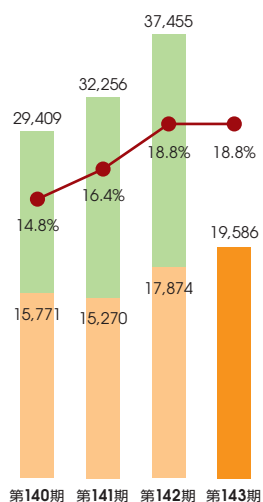
## ◆経常利益



## ◆当期純利益



## ◆研究開発費



単位：百万円

■ 年間

■ 中間

● 売上高に対する比率

# 当中間期の概況

## 販売の状況について

当中間期の連結の業績は、売上高は1,041億6千7百万円で前年同期に比べ13.0%の増となりました。

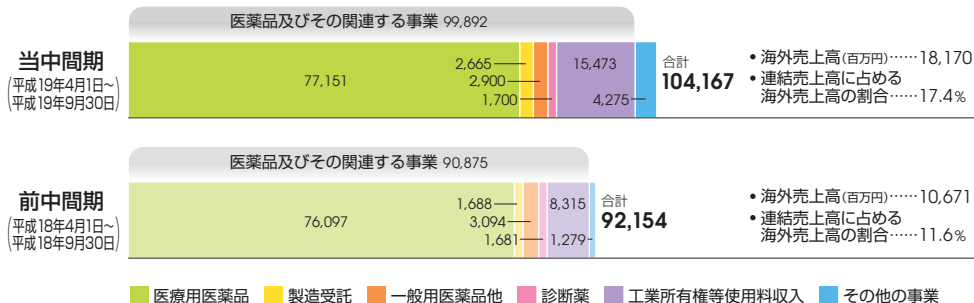
**医薬品及びその関連する事業**では、医療用医薬品におきまして、「 Crestol 」は順調に市場シェアを拡大し、売上が増加しましたが、抗生物質などの既存品については市場の縮小や後発品の拡大などの影響から売上が減少となり、医療用医薬品全体の売上は微増にとどまりました。

一方、アストラゼネカ社による海外での「 Crestol 」の販売増により「工業所有権等使用料収入」が大幅に増加した他、子会社の武州製薬(株)を中心とした製造受託がグループ外からの受託増加により売上が増加しました。

この結果、「医薬品及びその関連する事業」全体の売上高は998億9千2百万円で前年同期に比べ9.9%の増加となりました。

**その他の事業**の売上高は、シオノギエンジニアリングサービス(株)における工事受託の増加により、42億7千5百万円で、前年同期比234.2%の増加となりました。

### ◆セグメント別売上高 (単位:百万円)



## 利益の状況について

利益面におきましては、売上増、特に「工業所有権等使用料収入」の増加によりまして、研究開発活動の順調な進捗に伴う研究開発費の大幅な増加を吸収しました。その結果、当中間期の営業利益は171億4千5百万円で前年同期比56.1%の増となり、経常利益も171億5千万円で前年同期比56.2%の増となりました。また、中間純利益は107億8千8百万円で前年同期比68.7%の増となりました。

## 研究開発の状況について

研究開発活動の状況につきましては、高血圧症治療薬（一般名：イルベサルタン）、特発性肺線維症治療薬（一般名：ピルフェニドン）の2品目が製造販売承認申請中の他、現在、抗うつ薬、抗菌薬、抗肥満薬、抗そう痒薬などの薬剤の開発を進めており、特に、抗肥満薬、抗そう痒薬につきましては、シオノギUSAを拠点としてグローバルに開発を進めております。また、欧米諸国をテリトリーとして導出いたしておりますカルバペネム系抗生物質（一般名：ドリベネム）につきましては、ジョンソン・エンド・ジョンソン社によりまして欧米での開発が進められておりましたが、本年10月、米国におきまして承認を取得しております。また、抗アレルギー薬「クラリチン」につきましては、本年10月に小児への適応拡大およびドライシロップの剤形追加が承認され、今後一層の販売拡大が期待されます。

こうした活動の結果、当中間期における当社グループ全体の研究開発費は195億8千6百万円となり、売上高に対する比率は18.8%となりました。

### ◆新薬開発状況（平成19年11月現在）

開発No.	適応症／薬効（剤型）	開発地域	ステージ
SR47436	高血圧症治療薬	日本	■ 申請中
S-7701	特発性肺線維症治療薬	日本	■ 申請中
LY248686	抗うつ薬	日本	■ フェーズⅢ
LY248686	糖尿病性神経因性疼痛治療薬	日本	■ フェーズⅢ
S-4661	カルバペネム系抗生物質（注射）	日本	■ フェーズⅢ
S-013420	新規マクロライド系抗生物質（経口）	日本	■ フェーズⅡb
NS75B	前立腺肥大症治療薬	日本	■ フェーズⅡb
S-2367	抗肥満薬	米国	■ フェーズⅡb
NS75A	子宮筋腫治療薬	日本	■ フェーズⅡ
S-777469	抗そう痒、抗炎症薬（経口）	日本	■ フェーズⅡ準備中
S-0139	脳血管障害治療薬	日本 欧州	■ フェーズⅡa ■ フェーズⅠ
S-021812	インフルエンザ感染症治療薬	日本	■ フェーズⅠ
S-888711	血小板減少症治療薬	日本	■ フェーズⅠ
S-777469	抗そう痒、抗炎症薬	米国	■ フェーズⅠ
S-555739	アレルギー疾患治療薬	日本	■ フェーズⅠ準備中
S-349572	HIV感染症治療薬	米国	■ フェーズⅠ準備中

## 設備投資について

当中間期における当社グループ全体の設備投資額は総額61億円で、製造設備の増強や、研究設備の拡充などが中心となっております。



# 決算の概要

## 連結 中間連結損益計算書

科 目	当中間期	前中間期	増減額
	(平成19年4月1日～ 平成19年9月30日)	(平成18年4月1日～ 平成18年9月30日)	金 額 (百万円)
売上高	104,167	92,154	12,013
売上原価	34,685	30,609	4,076
売上総利益	69,482	61,544	7,938
販売費及び一般管理費 (うち研究開発費)	52,337 (19,586)	50,560 (17,874)	1,777 (1,712)
営業利益	17,145	10,984	6,161
営業外収益	1,908	1,599	309
受取利息	670	477	193
受取配当金	630	499	131
不動産賃貸料	330	290	40
その他	278	331	△ 53
営業外費用	1,903	1,606	297
支払利息	43	47	△ 4
寄付金	532	474	58
たな卸資産処分損	474	—	474
固定資産処分損	531	282	249
その他	320	801	△ 481
経常利益	17,150	10,977	6,173
特別利益	276	509	△ 233
投資有価証券売却益	276	120	156
過年度共同開発費戻入益	—	389	△ 389
特別損失	25	—	25
関係会社株式売却損	25	—	25
税金等調整前中間純利益	17,401	11,487	5,914
法人税、住民税及び事業税	3,737	1,552	2,185
法人税等調整額	2,868	3,517	△ 649
少数株主利益 (△)	△ 6	△ 23	17
中間純利益	10,788	6,394	4,394

**連結** 中間連結貸借対照表

科 目	当中間期	前 期	増減額
	(平成19年9月30日現在)	(平成19年3月31日現在)	
	金 額 (百万円)	金 額 (百万円)	金 額 (百万円)
<b>【資産の部】</b>			
流動資産	204,948	208,890	△ 3,942
固定資産	215,413	220,679	△ 5,266
有形固定資産	69,439	67,815	1,624
無形固定資産	6,098	6,135	△ 37
投資その他の資産	139,875	146,728	△ 6,853
資産合計	420,361	429,569	△ 9,208
<b>【負債の部】</b>			
流動負債	41,074	47,535	△ 6,461
固定負債	32,811	36,281	△ 3,470
負債合計	73,885	83,817	△ 9,932
<b>【純資産の部】</b>			
株主資本	318,378	311,289	7,089
資本金	21,279	21,279	0
資本剰余金	20,227	20,227	0
利益剰余金	286,936	278,871	8,065
自己株式	△ 10,064	△ 9,088	△ 976
評価・換算差額等	27,809	34,178	△ 6,369
その他有価証券評価差額金	27,810	34,262	△ 6,452
為替換算調整勘定	△ 1	△ 83	82
少数株主持分	287	283	4
純資産合計	346,475	345,752	723
負債純資産合計	420,361	429,569	△ 9,208

(注) 有形固定資産の減価償却累計額

162,304百万円

161,459百万円

## 連結 中間連結キャッシュフロー計算書

科目	当中間期 (平成19年4月1日～ 平成19年9月30日)	前中間期 (平成18年4月1日～ 平成18年9月30日)
	金額 (百万円)	金額 (百万円)
営業活動によるキャッシュ・フロー	<b>9,178</b>	<b>2,175</b>
税金等調整前中間純利益	17,401	11,487
減価償却費	4,711	4,156
資産・負債増減等	△ 5,806	△ 1,518
法人税等の支払額	△ 7,128	△ 11,950
投資活動によるキャッシュ・フロー	<b>△ 8,598</b>	<b>△ 20,957</b>
定期預金の払戻・預入	△ 117	△ 15,062
有形固定資産の取得・売却	△ 4,772	△ 4,147
投資有価証券の取得・売却等	△ 3,107	△ 903
資金貸付けの回収による収入	312	3
その他	△ 914	△ 847
財務活動によるキャッシュ・フロー	<b>△ 4,081</b>	<b>△ 3,916</b>
配当金の支払額	△ 2,720	△ 3,400
自己株式の取得による支出	△ 976	△ 170
借入・返済等	△ 384	△ 344
現金及び現金同等物に係る換算差額	<b>87</b>	<b>△ 53</b>
現金及び現金同等物の増減額	<b>△ 3,414</b>	<b>△ 22,751</b>
現金及び現金同等物の期首残高	<b>74,546</b>	<b>76,142</b>
現金及び現金同等物の期末残高	<b>71,131</b>	<b>53,390</b>

### キャッシュ・フローの状況

当中間期の「営業活動によるキャッシュ・フロー」は、利益の増加や法人税支払額の減少などがあり、前中間期に比べ70億3百万円多い91億7千8百万円のプラスとなりました。

「投資活動によるキャッシュ・フロー」は、製造設備への投資、投資有価証券の取得などを中心に、85億9千8百万円のマイナスとなりました。また、「財務活動によるキャッシュ・フロー」は、配当金の支払や自己株取得などにより、40億8千1百万円のマイナスとなりました。

この結果、当中間期末の「現金及び現金同等物の期末残高」は、前期末に比べ34億1千4百万円少ない71億3千1百万円となりました。

## 通期の見通し

今後の医療用医薬品市場におきましては、医療費削減圧力が依然として強く、来年4月には薬価改定も予定されており、より一層厳しい市場環境となることが予想されます。また、研究開発費の高騰など、医薬品メーカーを取り巻く経営環境はさらに厳しさを増してくるものと思われま

す。こうした状況におきまして、当社グループは、医療用医薬品事業を核として長期的な発展を遂げるための施策を積極的に進めるという第二次中期経営計画の取り組みを確実に進めていくことに注力してまいります。

通期の売上高につきましては、「 Crestor 」を中心とした国内医療用医薬品の販売拡大に加えて、工業所有権等使用料収入の増加も期待されることから、増収を見込んでおります。

利益面では、開発品の順調な進捗を反映して研究開発費の増加が見込まれますが、売上の拡大に加えて、原材料の価格低減などによる原価低減努力、一般管理費等における定常的費用の削減などのコスト削減努力によりまして、営業利益、経常利益、当期純利益ともに増益を見込んでおります。

### ◆通期の見通し

連結		
売上高	2,150億円	(前期比 7.6%増)
営業利益	400億円	(前期比 38.6%増)
経常利益	400億円	(前期比 42.3%増)
当期純利益	240億円	(前期比 29.1%増)

単体		
売上高	2,020億円	(前期比 8.8%増)
営業利益	370億円	(前期比 48.6%増)
経常利益	385億円	(前期比 48.2%増)
当期純利益	225億円	(前期比 29.9%増)

## 単体 中間損益計算書

当中間期  
(平成19年4月1日～  
平成19年9月30日)

科目	金額 (百万円)
売上高	96,253
売上原価	29,631
売上総利益	66,622
販売費及び一般管理費 (うち研究開発費)	51,480 (19,568)
営業利益	15,141
営業外収益	2,942
営業外費用	2,125
経常利益	15,958
特別利益	276
特別損失	1,216
税引前中間純利益	15,018
法人税、住民税及び事業税	3,270
法人税等調整額	2,679
中間純利益	9,069

## 単体 中間貸借対照表

当中間期  
(平成19年9月30日現在)

科目	金額 (百万円)
<b>【資産の部】</b>	
流動資産	196,196
固定資産	209,793
有形固定資産	57,198
無形固定資産	5,729
投資その他の資産	146,865
資産合計	405,989
<b>【負債の部】</b>	
流動負債	36,033
固定負債	30,691
負債合計	66,725
<b>【純資産の部】</b>	
株主資本	311,453
資本金	21,279
資本剰余金	20,227
利益剰余金	280,010
自己株式	△ 10,064
評価・換算差額等	27,810
純資産合計	339,264
負債純資産合計	405,989

(注) 有形固定資産の減価償却累計額 154,305百万円

## 約1万人の日本人を対象とした Crestor<sup>®</sup>の使用成績調査最終結果を発表

4月20日に「約1万人の日本人を対象とした Crestor<sup>®</sup>の使用成績調査」の最終結果の報告会をシオノギとアストラゼネカで行いました。

昨年の9月より Crestor<sup>®</sup>は通常販売に移行しておりますが、今回の約1万例のデータにより、改めて日本人での安全性が下記のように確認されました。

- 本剤の副作用発現頻度（11.12%）は、承認時の臨床試験における副作用発現頻度（18.8%）を超えるものではありませんでした。
- 日本人における本剤の筋・肝・腎に対する影響が海外データと異なることを示すものではありませんでした。
- 新たな副作用の懸念は認められませんでした。

有効性につきましても、LDL-コレステロールの低下およびHDL-コレステロールの上昇効果が確認できました。



## 2007年 シオノギ創薬イノベーションコンペ (FINDS) 結果のお知らせ

今年度から実施しましたシオノギ創薬イノベーションコンペ (FINDS: PHarma-INnovation Discovery competition Shionogi) の選考結果が確定いたしました。

総数242件という数多くの独創的なアイデアを研究者の皆様からご応募いただき、下記の通り11件を採択させていただきました。採択しました研究テーマは、順次共同研究契約を締結の上、研究を開始していただいております。



### 募集結果

- 応募総数 : 242件
- 採択件数 : 11件
  - ・抗感染薬の創薬シーズ ..... 3件
  - ・メタボリックシンドローム治療薬の創薬シーズ ..... 3件
  - ・慢性疼痛治療薬の創薬シーズ ..... 2件
  - ・アレルギー治療薬の創薬シーズ ..... 1件
  - ・ハイスループットスクリーニングに適応可能な新規アッセイ技術 ..... 1件
  - ・蛋白質結晶化条件の効率的な探索法 ..... 1件

FINDSは、シオノギが必要とするニーズを提示し、独創的なシーズをお持ちの日本国内の研究者の皆様からアイデアをご提供いただき、共に実用化に向けて取り組んでいこうとする産学連携の取り組みです。

今後も、創薬シーズや基盤技術の収集、探索を強化し、グローバルに貢献できる新薬の継続的な創製に取り組んでまいります。

## がん疼痛治療啓発TV-CM「がまんしない篇」「勇気篇」を放映中

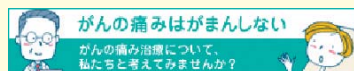
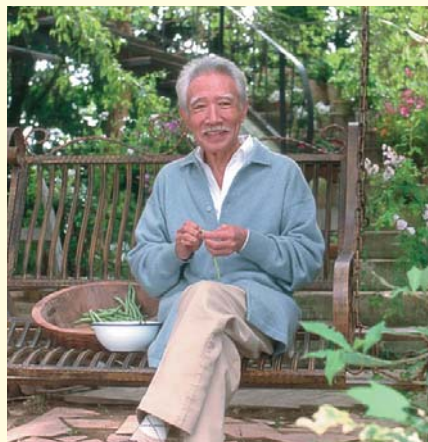
“がんの痛み治療”を啓発するためのTV-CMの放映を9月17日より開始しました。

自らもがんを経験し克服された藤村俊二さんを起用し、やさしく、真摯に語りかけてもらうことによって、“がんの痛み治療”を、より多くの方々に知っていただくことと企画したものです。

がんの痛みはのみ薬でとることができます。ですから、痛いときには「痛い」と医師や看護師や薬剤師そして身の回りの方に伝え、勇気をもって治療に取り組んでほしいと考えています。また、がんの患者さんやそのご家族だけでなく、広く一般の方々にも“がんの痛み治療”の重要性を知っていただきたいという思いをこのCMに込めています。

また、“がんの痛み治療”について、より詳しい情報を知ることができるウェブサイト「がんの痛みはがまんしない」も同時にリニューアルしました。

シオノギは、今年4月に新たに設置したがん疼痛克服推進部を中心に、啓発活動を積極的に行い、“がんの痛み治療”のさらなる普及に貢献してまいります。



<http://www.shionogi.co.jp/itami/index.html>

## セデスの新TV-CMを放映中

「ミュージックフェア21」の司会でもおなじみの鈴木杏樹さんを起用したセデスの新TV-CMの放映を8月24日より開始しました。

セデスが発売以来50年以上を経過していることからシオノギは痛みと半世紀以上に亘って向き合ってきたこと、選べる4つのセデスがあることをコンセプトとしています。

パネルで作った痛みのシーン（頭痛）をバックに、鈴木杏樹さんがシオノギの姿勢と症状に応じて選べるセデスがあることを語りかけています。



## ◆株式の状況

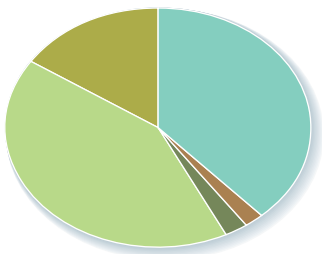
- 発行可能株式総数 1,000,000,000株
- 発行済株式総数 351,136,165株
- 株主数 22,825名
- 株主1人当たり平均持株数 15,384株
- 大株主

氏名又は名称	所有株式数 (単位：千株)	出資比率 (%)
1 住友生命保険相互会社	18,604	5.30
2 日本スタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	16,662	4.75
3 ステートストリートバンクアンドトラストカンパニー	15,879	4.52
4 ザチェースマンハッタンバンクエヌエイロンドン エスエルオムニバスアカウント	14,614	4.16
5 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	13,331	3.80
6 日本生命保険相互会社	13,138	3.74
7 塩野義製薬株式会社	11,233	3.20
8 ジーピーモルガンチエース オツペンハイマー フアンズ ジャスデツク アカウト	9,938	2.83
9 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (住友信託銀行再信託分・三井住友銀行退職給付信託口)	9,485	2.70
10 日本興亜損害保険株式会社	7,538	2.15



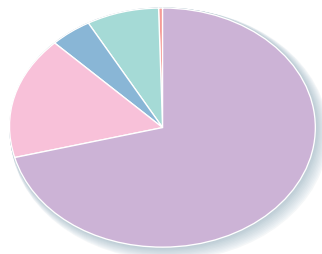
## ◆ 株式の分布状況

< 所有者別株式分布 >



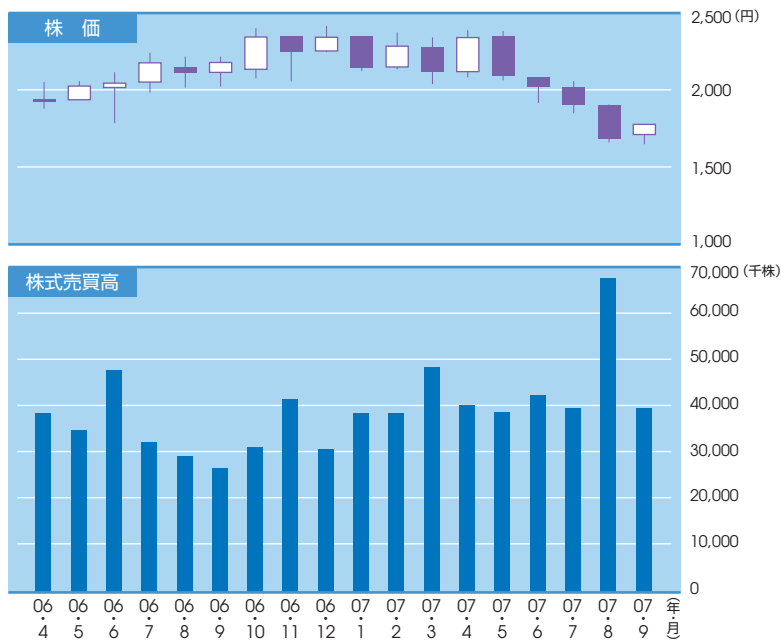
金融機関	38.14%
証券会社	2.06%
その他の法人	2.45%
外国法人等	41.69%
個人その他	15.66%

< 所有数別株式分布 >



1,000千株以上	70.97%
100千株以上	16.54%
10千株以上	4.41%
1千株以上	7.66%
1千株未満	0.42%

## ◆ 株価および株式売買高の推移



株式の概況

## 会社の概要 (平成19年9月30日現在)

商号	塩野義製薬株式会社 (SHIONOGI & CO.,LTD.)
創業	1878年(明治11年)3月17日
会社設立	1919年(大正8年)6月5日
決算期	3月31日
事業内容	医薬品、診断薬などの製造・販売
資本金	212億79百万円
従業員数	4,381名



<http://www.shionogi.co.jp/>

## 役員 (平成19年9月30日現在)

### 取締役

代表取締役 会長	宮本 梨
代表取締役 社長	塩野 元三
取締役	手代木 功
取締役	戸梶 幸夫
取締役	三野 泰宏

### 監査役

常勤監査役	大谷 光昭
常勤監査役	小松 聰司
監査役	浦上 敏臣
監査役	永田 武全

(注) 監査役 浦上敏臣 及び 監査役 永田武全は、会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。

### 執行役員

専務執行役員	手代木 功
常務執行役員	戸梶 幸夫
常務執行役員	三野 泰宏
常務執行役員	福田 卓雄
常務執行役員	久米 龍一
執行役員	近藤 裕郷
執行役員	藤井 一義
執行役員	山田 憲生
執行役員	前田 均
執行役員	納田 敬一郎
執行役員	澤田 拓子

## 本 社

〒541-0045 大阪市中央区道修町3丁目1番8号  
Tel 06-6202-2161

## 支 店

### 東 京 支 店

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷2丁目17番5号  
シオノギ渋谷ビル  
Tel 03-3406-8111

### 名 古 屋 支 店

〒460-0004 名古屋市中区新栄町2丁目9番地  
スカイオアシス栄  
Tel 052-957-8271

### 福 岡 支 店

〒810-0072 福岡市中央区長浜1丁目1番35号  
新KBCビル  
Tel 092-737-7750

### 札 幌 支 店

〒064-0807 札幌市中央区南七条西1丁目13番地  
第3弘安ビル  
Tel 011-530-0360

## 研 究 所

### 中 央 研 究 所

〒553-0002 大阪市福島区鷺州5丁目12番4号  
Tel 06-6458-5861

### 新 薬 研 究 所

〒561-0825 豊中市二葉町3丁目1番1号  
Tel 06-6331-8081

### 医 学 研 究 所

〒566-0022 摂津市三島2丁目5番1号  
Tel 06-6382-2612

### 油 日 ラボラトリーズ

〒520-3423 甲賀市甲賀町五反田1405番地  
Tel 0748-88-3281

## 工 場

### 摂 津 工 場

〒566-0022 摂津市三島2丁目5番1号  
Tel 06-6381-7341

### 金 ヶ 崎 工 場

〒029-4503 岩手県胆沢郡金ヶ崎町西根森山7番地  
Tel 0197-44-5121

## 事 業 所

### 杭 瀬 事 業 所

〒660-0813 尼崎市杭瀬寺島2丁目1番3号  
Tel 06-6401-1221

## 物 流 セ ン タ ー

### シオノギ物流センター

〒566-0022 摂津市三島2丁目5番1号  
Tel 06-6381-7342

### シオノギ東京物流センター

〒270-0233 野田市船形字上原巻1513番地  
中央運輸株式会社 野田営業所内  
Tel 04-7127-3000

## 海 外

(事業所・関係会社)

Shionogi & Co.,Ltd.

Taipei Office

4F, No. 2, Sec. 2, Nanking East Road

Taipei 10457, Taiwan, R.O.C.

Tel +886-2-2551-6336

Taiwan Shionogi & Co., Ltd.

4F, No. 2, Sec. 2, Nanking East Road

Taipei 10457, Taiwan, R.O.C.

Tel +886-2-2551-6336

Shionogi USA, Inc.

100 Campus Drive, Florham Park,

NJ 07932, U.S.A.

Tel +1-973-966-6900

# 株主メモ

◇ 決 算 期	3月31日
◇ 定時株主総会	6月
同総会権利行使 株 主 確 定 日	3月31日
◇ 期末配当金受領 株 主 確 定 日	3月31日
中間配当金受領 株 主 確 定 日	9月30日
◇ 単 元 株 式 数	1,000株
◇ 公 告 掲 載 方 法	電子公告 当社インターネットホームページ ( <a href="http://www.shionogi.co.jp/">http://www.shionogi.co.jp/</a> ) に掲載しています。
◇ 上場証券取引所	大阪・東京
◇ 証 券 コ ー ド	4507
◇ 株主名簿管理人	住友信託銀行株式会社 大阪市中央区北浜4丁目5番33号
同 事務取扱場所	住友信託銀行株式会社 証券代行部 大阪市中央区北浜4丁目5番33号
同 郵便物送付先・ 電 話 照 会 先	住友信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1番10 〒183-8701 電話：(住所変更等用紙のご請求) ☎0120-175-417 (その他のご照会) ☎0120-176-417
同 取 次 所	住友信託銀行株式会社 全国各支店

## ◆各種諸届について

住所、届出印、法人株主の代表者、役職名、氏名、商号、配当金の振込口座の変更、および単元未滿株式の買取請求は、住友信託銀行 全国各支店にて所定の用紙でお申し込みください。ただし、証券保管振替機構に株券を預託されている場合には、お取引の証券会社にお申し出ください。

## ◆単元未滿株式の買取について

単元未滿株式(1株～999株で、登録株(名簿上の株式)を含む)の1株当たりの買取価格は、住友信託銀行の窓口にご請求があった日の大阪証券取引所の最終価格となります。

\* ご請求日に大阪証券取引所で売買取引がなかったときは、東京証券取引所の最終株価となります。

\* また、買取代金から予め定めております手数料を徴収させていただきますのでご了承ください。

## ◆株券を喪失されたときの諸手続きについて

お手持の株券を盗難、紛失、焼失などにより喪失された場合の諸手続きは、上記株主名簿管理人にてお受けいたします。



当紙ハルブ配合率15%再生紙を使用